

## 要約

日常生活の中で、音楽は至る所で耳にし、人間にとって欠かすことのできないものである。本研究は、男子高校生を対象に、音楽ジャンルをロック・ミュージックに絞り、ロック・ミュージックとして著名なアーティストの1つである BUMP OF CHICKEN の楽曲を使用して、その音楽の印象形成における歌詞とメロディーの関係について検討する。また、BUMP OF CHICKEN の楽曲は内省的なイメージが強いものが多いことから、個人の内省に関しても調査し、それと音楽の印象形成における歌詞とメロディーとの関連についても検討することが目的である。

本研究の実施内容は、アップテンポで歌詞が暗い内容という対照的な曲（バトルクライ）と、ローテンポで歌詞は暗い内容という曲（飴玉の唄）という、歌詞とメロディーのバランスの違う2曲を本調査で使用し、比較・検討することとした。まず、これらの曲の歌詞・メロディーが音楽の印象形成にどのような影響を及ぼしているのかを検討するために、バトルクライそれぞれを、実験条件として歌詞のみ（A群）、メロディーのみ（B群）に分け、オリジナル条件（原曲）も設け、それぞれに印象評定を行った。次に、内省に関する15項目からなる質問紙にも回答してもらい、音楽と内省との関連についても検討した。

その結果、実験条件での印象の差はバトルクライの方が大きいと示された。また、バトルクライの方が、メロディーを聴いたときと歌詞を見たときとで、違う印象が形成されていることから、メロディー・歌詞にギャップがあると考えられ、歌詞とメロディーの調和の程度については確認することができた。つまり、飴玉の唄のような歌詞とメロディーの調和あるものは、あまり印象が変化せず、バトルクライのような歌詞とメロディーの調和のないものは、大きく変化することが分かった。さらに、飴玉の唄は、メロディーによる音楽の印象形成が強いことが示されたのに対して、バトルクライは、歌詞・メロディーによる音楽の印象形成がともに強いことが示された。内省に関しては、十分な結果が抽出されなかった。

これらの結果から、飴玉の唄よりもバトルクライの方が多く音楽の印象の変化が見られたのは、暗い歌詞を聴いた後にアップテンポなメロディーを加えたオリジナルを聞くと、アップテンポなメロディーにより強く印象が形成され、アップテンポなメロディーを聴いた後に、暗い歌詞を加えたオリジナルを聴くと、暗い歌詞により強く印象が形成されているという、歌詞とメロディーのギャップによるものだと言えるだろう。また、内省に関しては、より日常の音楽聴取と近い環境で調査し、長期的な実験を行うことで、自然な音楽聴取と内省の関連を検討する必要があると考えた。